



## 2020に羽ばたく若き演奏家として



プログラムは3部制。さまざまな分野の「アーティスト」たちの出演が予定されている。

第1部は「2020に羽ばたく若き演奏家たち」のサブタイトル。城戸さんたち若手アーティストが登場する。管弦楽は藝大フィルハーモニアを核に東京の各音楽大学から選抜された方々による「音楽大学フェスティバル・オーケストラ」、指揮は田中祐子氏である。

東京オリンピックのファンファーレとともに、演奏会がスタートする。オープニングアクトは金澤翔子氏の書道。羽ばたく想いをのせて「翔」の字が描かれる。

城戸さんは一番手。サンサーンスの「序奏とロンドカプリッチオーソ」。

「・・・8年前、中学生だったときに初めてオーケストラと弾いたのがこの曲です。普段はピアノとの共演で弾かれることの多い曲で、かろやかであり、作曲家の母国であるフランスのエスプリが込められている曲だと感じています。ヴァイオリンの技巧もお洒落です。」



「が、オケと弾くとなると、もう少しどっしりと落ち着いた感じで弾いてみようと思っています」・・・言葉のとおり、トップバッターの緊張感などみじんも感じさせず、堂々と華麗に弾きこなした。

さまざまな芸術文化の競演。第2部では、邦楽囃子が披露され、平均台、マットでの体操、の動きに合わせ、AI(人工知能)による自動ピアノの演奏が行われた。第3部では、これまでのオリンピック開催地、東京・札幌・長野を結ぶ中継。オリンピックファンファーレが響き渡り、開催中のリオへと想いが馳せられる。最後は、出演者全員が舞台に立ちご挨拶。大きな拍手が贈られていた。

多くの方々が関わる舞台、いつもの演奏会とは、また異なる雰囲気・環境の中での演奏、城戸さんにとっても貴重な経験となったもよう。終演後の楽屋では、みなさんから口々に「素晴らしかった！」と声をかけられていた。



演奏中の写真のご提供：Summer Arts Japan 実行委員会

# 多くの方々のパワーをいただいて

終演後の城戸さんに、話を聞いた。

ー 本日の演奏；

「・・・田中祐子先生とは初めてご一緒したのですが、とても話しやすくて親しみやすくて。気持ちよくリハも本番も演奏することができました」。

「・・・一緒に弾いていて、目が合ったときに、田中先生がとても楽しそうに指揮をされていて。こちらにも非常に感化されるものがありました」

「・・・今日のオケは、先日(7月14日)の藝大モーニングコンサートでご一緒させていただいたみなさん。顔なじみの方々もたくさんいらして、応援して下さるみなさんのパワーをいただいて、楽しく演奏できました」

マエストロ・田中祐子氏と



指揮の田中祐子氏からもコメントをいただいた；

「・・・昨日リハーサルをして、今日、一日でこれだけ変化したものを仕上げてくるっていうのは、素晴らしいなと思いました。彼女は根性がありますね。ヴァイオリニストはね、『毒がある』のがいいのよ」といたずらっぽく笑いながら話してくださった。

7月後半は、「小澤国際室内楽アカデミー奥志賀」に参加、小澤征爾氏の指揮のもと室内楽を演奏し、大きな学びとなったとのこと。

城戸さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください！

## <プログラム>

### ◆第1部 2020に羽ばたく若き演奏家たち

東京オリンピックファンファーレ(音楽大学フェスティバル・オーケストラ)

オープニングアクト(書:金澤翔子)

サンサーンス:序奏とロンドカプリッチオーソ(ヴァイオリン:城戸かれん)

グノー:オペラ「ロメオとジュリエット」より“私は夢に行きたい”(ソプラノ:光岡暁恵)

プッチーニ:オペラ「トゥーランドット」より“誰も寝てはならぬ”(テノール:城 宏憲)

ゴメス:オペラ「グワラニー族の男」序曲

### ◆第2部 Sports Arts Science

特別出演:マーチ「明日へ」(台東区上野小学校児童)

Sports Arts Science「音舞の調べ」

邦楽囃子:東京藝術大学音楽学部邦楽科

(小鼓:蘆慶順、大鼓:大原信正、笛:西川浩平)

順天堂大学体操競技部:豊田時生、松本啓吾、中村紗基、八木千夏

コシノジュンコ

### ◆Finale 三都市連携プログラム 東京、札幌、長野

三都市のファンファーレ『オリンピック賛歌』

演奏:藝大フィルハーモニア、

音楽大学フェスティバル・オーケストラ

指揮:田中祐子

### ◆司会

パトリック・ハーラン

井田寛子



# Summer Arts Japan 2016

都市のレガシーはTOKYOへ



金澤翔子



城戸かれん



JUNKO KOSHINO



田中祐子



藝大フィルハーモニア



光岡 暁恵



城 宏憲



巖 慶順



大原信正



西川浩平

2016年8月7日(日) 東京藝術大学奏楽堂 17:30開場/18:00開演

主催 Summer Arts Japan 実行委員会

共催 東京藝術大学 協力 (公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、音楽大学フェスティバル・オーケストラ、全国芸術系大学コンソーシアム

後援 (公財)日本オリンピック委員会、文化庁、入都一ツ庁、台東区、台東区教育委員会、順天堂大学 連携 札幌市、長野市 企画協力 東京藝術大学COI拠点

# 【コンサート・プログラム P.1、2】

Summer  
Arts  
Japan

## ご挨拶

本日はSummer Arts Japan 2016にご来場いただきありがとうございます。

2020年に開催されるオリンピック・パラリンピック東京大会は、スポーツはもとより文化の祭典として様々なプログラムが期待されています。この度、2020年を越えて日本のオリンピック・パラリンピックのレガシーとして燦然と輝く文化の祭典を築き上げようと、日本の文化組織が結集しSummer Arts Japanを企画・運営する運びとなりました。

このSummer Arts Japan 2016は、2020年に向けた様々な文化的なプログラムに先駆けるもので、音楽を始めとする多様な芸術文化を最先端テクノロジーと融合させ、これまでにない新しいエンターテインメントとして世界に発信していく画期的な企画です。

時代の変遷に伴い多様化する文化のあり方、そして、社会に適合した文化のあり方を追求し、文化を尊重する次世代の人間をより多く育むことを目的に、我々は今後も活動を続けていきたいと考えています。この地球に存在する数多のユニークな文化は、人間の生きる証であり人間の尊厳を最も象徴するものです。

Summer Arts Japanは来年以降も継続して夏に開催いたします。2020年には、誰もが参加できる芸術祭を目指し、その後も続く夏の風物詩になるよう進化させていきたいと考えています。

ご協力・ご後援をいただきました関係各位に真意より感謝を申し上げますとともに、今後のご協力・ご声援を切にお願いいたします。

Summer Arts Japan 2016 実行委員会  
実行委員長 松下 功

## プログラム

### 第1部 2020に羽ばたく若き演奏家たち

東京オリンピックファンファーレ(音楽大学フェスティバル・オーケストラ)

オープニングアクト(書:金澤 翔子)

サン＝サーンス:序奏とロンドカブリッチオーソ(ヴァイオリン:城戸かれん)

グノー:オペラ「ロメオとジュリエット」より「私は夢に生きたい」(ソプラノ:光岡 暁恵)

ブッチェーニ:オペラ「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」(テノール:城 宏憲)

ゴメス:オペラ「グワラニー族の男」序曲

### 第2部 Sports Arts Science

特別出演:マーチ「明日へ」(台東区上野小学校児童)

Sports Arts Science「音舞の調べ」

邦楽囃子:東京藝術大学音楽学部邦楽科(小鼓:盧 慶順、大鼓:大原 信正、笛:西川 浩平)

順天堂大学体操競技部:豊田 時生、松本 啓吾、中村 紗基、八木 千夏

コシノジュンコ

### Finale 三都市連携プログラム 東京、札幌、長野を回線で繋ぎます

三都市のファンファーレ「オリンピック賛歌」

演奏:藝大フィルハーモニア、音楽大学フェスティバル・オーケストラ

指揮:田中 祐子



パトリック・ハーヴァン



井田 寛子

## 演奏作品について

今井光也作曲：

東京オリンピックファンファーレ

1964年10月10日東京オリンピック開会式において初演されました。

サン＝サーンス作曲：

序奏とロンドカブリッチオーソ

フランスの作曲家カミーユ・サン＝サーンス(1835-1921)が、ヴァイオリニスト バグロ・サラサーテの為に作曲した作品で、1864年サラサーテ本人により初演されています。スペイン的な雰囲気をもつ名曲です。

グノー作曲：

オペラ「ロメオとジュリエット」より「私は夢に生きたい」

フランスの作曲家シャルル・グノー(1818-1893)によるオペラ「ロメオとジュリエット」の1幕でジュリエットが歌うアリア(ワルツ)です。

ブッチェーニ作曲：

オペラ「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」

ジャコモ・ブッチェーニ(1858-1924)は、イタリアの作曲家で多くのオペラを作曲しています。この作品は、パヴァロッティをはじめ多くのテノールにより歌われています。2006年のトリノでの冬季オリンピックで、フィギュアスケートの荒川静香さんがこの曲で演技してから、一躍有名になりました。

ゴメス作曲：

オペラ「グワラニー族の男」序曲

アントニオ・カルロス・ゴメス(1836-1896)は、19世紀ブラジルを代表するオペラ作曲家。ブラジルの作家によるロマンス小説「グワラニー族」をテキストとして作曲。1870年ミラノのスカラ座で初演、のちにリオデジャネイロで初演し成功を取めました。ブラジルに想いを馳せて、この序曲を選びました。

マーチ「明日へ」

台東区上野小学校の児童たちが作家・作曲家と一緒にオリンピックについて勉強しながらマーチを作りました。

松下 功作曲：

音舞の調べ

5月19日、ベルリンフィルシャルーンアンサンブル、東京藝術大学邦楽器科の演奏、コシノジュンコのshowにより初演された作品。本公演のために一部改作・省略。体操選手が装着したウェアラブル端末からの情報がAIを通して自動演奏ピアノに送られます。コシノジュンコのコスチュームを纏った選手の身体の動きが、「音舞の調べ」に乗せて音を奏でます。

スピロ・サマラス作曲：オリンピック賛歌

オリンピックが近代に復活するにあたりコスティス・パラス作詞、スピロ・サマラス作曲で作られたものです。1896年の第1回アテネオリンピックの開会式で歌われました。野上彰による和訳の歌詞で歌われています。

## Sports Arts Scienceについて

日本の社会は科学技術とともに目覚ましい発展を遂げてきました。それは文化においても同様です。科学に牽引された生活に文化も足並みを揃え、映像は映画・テレビからネットへと変遷し、クローン美術の発展により保存から再創へと歩みだし、エレクトロニクスの変化により音楽の表現形態も変わってきました。芸術のあらゆる領域で科学の恩恵を受け、その有り様を変えようとしています。スポーツも同様に最先端の科学と一体となった研究や開発が進み、新たな記録を生み出し、領域を広げ社会に根付いています。

我々は、単に芸術の素晴らしさを提示するに留まらず、新しい時代に適合した芸術の姿を追求しようとして、〈スポーツ・芸術・科学〉の融合を試みるようになりました。スポーツと芸術に共通するもの、それは人間の持つ「美」という感性です。トップアスリートの演技は実に美しく、それ自体が一流の芸術作品です。2020年に向けてオリンピック・パラリンピックの多くの競技と一体となって、世界に誇れる芸術作品を生み出していきたいと考えています。

今回は体操に着目しました。舞台にマットと平均台を置き、センサーを付けたアスリートたちの動きを自動ピアノの音に変換します。さらにAI(人工知能)とともに練習を重ねることによって、音楽へと醸成していきます。そして、その音楽が、人間が演奏するオーケストラと共演する「アスリート協奏曲」を生み出して行きます。

今後さらなる発展を遂げるAIの世界、芸術の分野ではAIと共に一つの芸術作品を生み出すことができるのです。そして、AIとの共存の世界へ踏み出していきます。その瞬間に皆様も立ち会っていただき、その発展を見守っていただきたいと思っています。

# 【コンサート・プログラム(裏表紙)】

Summer Arts Japan 2016

## 出演者プロフィール



### 金澤翔子(書)

1985年日原区生まれ。5歳から母の指導で書を始め、20歳の時、銀座書齋で初個展。福島に「金澤翔子美術館」を開設。NHK大河ドラマ「平清盛」陣忠。銀座に「銀座金澤翔子美術館」を開設。天皇の御製を揮毫。30歳、国連本部でスピーチ。京都に「シナリー金澤翔子美術館」開設。日本福祉大学準教授。



©K.Muro

### 城戸かれん(ヴァイオリン)

東京藝術大学附属高等学校在学中に、第14回松方ホール音楽賞、第79回日本音楽コンクール第2位、2016年、カール・ニコルセン国際ヴァイオリンコンクール第4位。全日本学生音楽コンクール、ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール(ミラノ)にて第1位、ジョルジュ・エネスコ国際コンクール(ブカレスト)にて特別賞を受賞。現在、東京藝術大学4年在学中。



©Flavia Galozzi

### 光岡暁恵(ソプラノ)

昭和音楽大学卒、同大学院修了。2004年文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてイタリア、ミラノに留学。第5回静岡国際オペラコンクール第1位(日本人初)・三浦賞賞・オーディエンス賞の3冠を受賞。今後の活躍が期待される新星ベルカントソプラノ。藤原歌劇団員。



### 城 宏憲(テノール)

東京藝術大学卒業、卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞、新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁新進芸術家海外研修制度にて渡伊。第4回イタリア声楽コンクール、シエナ大賞。第8回日本音楽コンクール声楽部門第1位並びに岩谷賞(聴衆賞)。本年2月東京二期会「イル・ロヴェートレ」メンバーで二期会デビュー。二期会会員。



### JUNKO KOSHINO

文化服装学院在学中、新人デザイナーの発掘といわれる芙蓉賞を最年少の19歳で受賞。1978年パリコレクション初参加。以降世界各地でショーを開催。2006年イタリア文化功労勲章・カヴァリエーレ章受勲。官公庁VISIT JAPAN大使。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会「文化・教育委員」。



### 嵐 慶順(小鼓)

日本音楽集団所属。  
慶松会会員。東京藝術大学音楽学部准教授。



### 大原信正(大鼓)

邦楽囃子方兼合流 兼合四声。  
東京藝術大学非常勤講師。



### 西川浩平(笛)

第1回オーストラリア国際フルートコンクール3位入賞。  
多くの現代音楽の初演に携わる。



### 田中祐子(指揮)

東京藝術大学大学院指揮科修了。指揮を尾高忠明、広上淳一、高岡賢の各氏に師事。第16回東京国際コンクール入選、第51回アザンソン国際指揮者コンクール、第3回シベリヤ国際指揮者コンクール、セミファイナリスト。これまでに、クワチア国立歌劇団リエカ管、東フィル、大フィル等多数客演。2015-16年シーズンNHK交響楽団ハーヴェ・ヤルヴィ氏公式アシスタント。  
田中祐子ウェブサイト [yuko-tanaka.com/](http://yuko-tanaka.com/)



### 藝大フィルハーモニア

東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラ。前身である旧東京音楽学校管弦楽部は、わが国初の本格的なオーケストラで、数々の作品を本邦初演し、日本の音楽界の礎石として活動を行う。

## 順天堂大学体操競技部

豊田時生、松本啓吾、中村紗基、八木千夏

## 音楽大学フェスティバル・オーケストラ

上野学園大学: 小栗直泰(ob)、喜田理水(d)、後藤俊太郎(va)、近藤有里(hr)、ローリー・アイルン(trp)、船史志帆未(perc)

国立音楽大学: 青木春菜(trp) / 昭和音楽大学: 藤井友虹子(trp)、伊藤雄太(trb)、宮良七海(eup)

洗足学園音楽大学: 間達音子(hr)、筆氏くらら(vn)、堀内祐実(trp)、丸田華輝(vn)、

東京音楽大学: 大崎のどか(eup)、西 智介(trb)

東京藝術大学: 池城菜香(hp)、井上祐吾(va)、大谷真結子(vn)、大光嘉理人(vn)、桂田光理(va)、布施砂丘彦(cb)、三原成美(trb)

東邦音楽大学: 加藤千尋(cl)、竹部菜果(vn)、香場菜々美(trp)、宗石月海(perc) / 東邦音楽短期大学: 高橋さやか(trp)

桐朋学園大学: 森本直通(trp)

武蔵野音楽大学: 武田成美(d)、寺脇万葉(ob)、中峯優太(va)、平木佑弥(trp)、佐倉圭亮(大学院vc)